



まちの達人

TATSUJIN

形原レディースサークル

代表 小林 房子

商店街の状況はとても厳しく後継者ができない商店がほとんどです。そんな中、勉強会の仲間誘われたのがきっかけでサークルが立ち上がりました。

お客様と接する時間が多い女将さんの笑顔とパワーに光をあて、もともとと輝いてもらいたい。そんな願いで始めました。しかし、何も知らない私に何ができるのか心配でした。

集まった面々、ふたを開ければ異業種ばかり。しかし、それが功を奏して、計画、進行、経理、発信、外交など各自の能力発揮の場が自然にできあがったような気がします。

店から離れられない女将さんにとって、いかにして来店を促すイベントをするかがポイント

です。身近にある風習を取り入れたり、ほかのイベントとのコラボやこまめに季節感のある演出をして五感を刺激する方法も大切。そして「自分たちも楽しみたい」が絶対条件です。

春・秋には外でのイベントを開催します。その時は、女将さん茶屋と称し、会場に「ミニ商店街」を作り、自店の商品を販売するのです。お金を掛けなくとも「知恵」を出し合い、自分たちの手で、できる人、出られる人が力を出す。失敗しても「肥やし」にします。

市内外から来客のある「ひな祭りロード」「お月見の会」は、続けて7年が過ぎようとしています。また、うれしかった事は、「形原もつと輝きマップ」が全国商店街ポスター部門において全国一位に選ばれたことです。昨年は県から、「ブランド商店街」にも認定されました。

自分たちから元気になろうと活動してきた事に「賞」を頂いてうれしい限りです。また、私たちの考えに共感して協力をお願いしているお客様に、心から感謝します。これからも「発信」を怠らぬよう頑張りますのでよろしく願います。

水族館

読む

学芸員 小林龍二

竹島水族館 ☎68・2059

魚も人間と同じように、毎日同じものばかり食べていると体に悪い。日々のエサにメニューがあるのをご存じでしょうか。中には同じエサばかりあげていると、体の調子を崩す前にそのエサに飽きてしまい、食べなくなってしまう。グルメな魚もいます。また、反対に1種類のエサしか食べない変わり者の頑固な魚もいます。

エサもいろいろ

竹島水族館では、エビやイカ、アジ、アサリなどのエサを、今日はアサリ、明日はアジとイカなど、メニューを決めて与えています。魚もぜいたくで案外、私たち人間よりいい暮らしをしているんですよ。

しかし、広い海で暮らしていた魚たちにとって、水槽はあまりにも小さく、運動不足になりがちです。その上、水族館で用意するエサはタンパク質が豊富で栄養価が高いので、魚たちは少し太り気味です。そのために飼育員は、魚たちの栄養士にもなって気を配っています。実はアシカたちのショーには、最近の人間のようにメタボリックにならないようにという健康管理や運動の意味もあるのです。

さてそこで、皆さんが魚だったら、一生を保障された水槽の中で裕福に暮らすほうがいいか、ほかの魚や敵にいつ襲われるか分からない厳しい自然界で暮らすほうがいいか、どちらを選ぶでしょうか。どちらにもいいところ、悪いところがあります。難しい選択ですね。時には魚の気持ちになつて考えてみてはいかがでしょうか。

